

快適にお使いになるために

メンテナンスについて

撥水加工と 防水加工の 違い

テント生地加工には撥水加工と防水加工の2種類があります。通常、テント(フライシート)の外側の面には撥水加工(水をはじく加工)、内側の面には防水加工(水を透さない加工)が施されています。生地のメンテナンスをする上でこの2種類の加工の違いを理解していないと誤ったメンテナンスをして、かえってテントの性能を落としてしまうこともあります。撥水剤はテントの外側の面に塗布し、防水剤はテントの内側の面に塗布してください。また、寝る際の壁や天井の生地には絶対に防水剤を塗布しないでください。生地の通気性が失われ、一酸化炭素中毒などの事故の原因になります。

1. 撥水加工のメンテナンス 生地の撥水加工の効果が悪くなった場合は、まずテントを洗ってみてください。(洗い方については○保管方法を参照)撥水加工が劣化しているのではなく、表面に汚れが付着して撥水効果が落ちてくる場合もあります。この場合は洗うだけで効果が回復します。また、生地にアイロンをかけるのも有効です。その場合はテントの外側になる面から低温でアイロンを当ててください。ただし、あまり熱中してアイロンを当てると生地にダメージを与えてしまうのでご注意ください。上記のような方法を試してみて、それでも撥水効果が回復しない場合に撥水剤を生地に塗布してください。

2. 細かい部分の防水加工(目止め) テントは完全防水という訳ではありません。シームシール加工をしていない縫製部分やマジックテープ、ファスナーなどの水を吸いやすい部分からは雨水が侵入します。こういった箇所の防水には液体状の防水剤(目止め剤)を塗り込むことをおすすめします。塗り込む部分のほこりや汚れを落としてからしっかり浸透させてください。市販の防水剤は乾燥時間の長いものが多いのでパッケージや説明書をよく読み正しくお使いください。

3. 小さな破れや穴の補修 5~6cmの小さな破れや、火の粉で割った細かい穴などは、市販のリペアシート(シール加工された生地)を両面から貼り付けるだけで十分補修できます。キャンプ場での応急処置ではガムテープ等を貼り付けるのも有効です。ただし、ガムテープ等をあまり長時間貼っておくと、はがした時に粘着性が生地に残り、その後の修理が困難になるケースがありますのでご注意ください。

結露について

暖かい空気が冷たい空気(物)と接して、暖かい空気側の面に水滴が付着することを結露といいます。これは、暖かい空気中に含まれている水分が急激に冷やされて露となって付着したもので、暖かい空気の湿度が高く、温度差が激しいほど、結露はひどくなります。テントの場合ではフライシート・内幕・グラウンドシートの内側に、タープの場合は内側に結露が生じます。

- 「換気を十分にを行い、温度差をなくす」「通気性を高める」ことによって結露を軽減することができます。
- 防水加工をしていない生地や、遮断性防水素材(ゴアテックス®など)は、結露を軽減させますが、完全に防止することはできません。
- 結露によりテント(タープ)の内側に付着していた水滴が、急な雨などにより、フライシート(タープ)外側からたたかた落ちてくる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

加水分解について

テント生地の防水コーティングに使用されているポリウレタンは、経時的な変化により劣化する性質があります。これは空気中の湿気などの水分により「加水分解」と呼ばれる科学的な変化が起こり、コーティングがベタベタしたり剥離するなどの現象です。この「加水分解」によるコーティングの劣化は防水性能の低下をもたらします。また、一度劣化した防水コーティングは修復が不可能です。この現象は使用状況や保管の状態により劣化の発生時期や進行状況に差があります。これらの現象は、下記の方法で進行を遅らせることができますが、完全に避けられませんのでご注意ください。

「よく乾燥させてから収納する」「乾燥した場所で保管する」「長期間同じ状態で保管せず、生に数回風を通す」

保管方法

ご使用後は、完全に乾燥させてから、日光の当たらない風通しの良いところに保管してください。

- 生地の汚れを落とす場合には、水で洗い流すか、乾燥した状態でブラシなどで払い落とすなどしてください。ひどい汚れの場合には中性洗剤を水で薄め、汚れた部分をスポンジなどで軽くこすった後、水で洗い流してください。ただし、強い酸性の洗剤を使用したり、強くこすったりすると、生地外側の撥水加工(テフロン加工を含む)が極端に低下しますので、ご注意ください。
- 生地の外側を洗う時には、内側の防水コーティング面を傷つけないように注意してください。洗濯機で洗濯したり地面にこすりつけたりすると、コーティング面に傷がつく場合があります。また、シンナーやベンジンなどの薬品は絶対に使用しないでください。コーティング剤が剥がれる可能性があります。なお、濡れたまま放置しておくと、カビが発生したり、含まれている水分が腐って悪臭の原因ともなります。
- ポールはパイプの内側まで完全に乾燥させ、付着した泥などを拭き取って収納してください。
- 暑の近くで使用した場合には、生地でポールをよく水洗いし、水分を取り除いて、十分に乾燥させてください。
- 生地を濡れたまま車やトラックのような、高温になる場所に放置しておくと、極端な色移りや生地の劣化などが生じます。なるべく早く完全に乾燥させてから日光の当たらない風通しの良いところに保管してください。

保証について

本製品は、厳密な品質管理体制の下、ogawaの技術と長年の経験を生かして製造されており、万一、品質不良が認められた場合には、無料で修理または新品と交換させていただきますので、弊社の「お客様相談室」までご連絡ください。また、次のような場合は、有償修理となります。

- 商品用途以外での使用および不当な修理や改造による故障・損傷
- 台風、地震、火災、風水害などの天災による故障・損傷
- ご使用後のキズ、変色、汚れ、破損および保管上の不備による損傷
- 取扱説明書を無視した使用による故障・損傷
- 紫外線などによる生地の劣化

修理について

修理を依頼される場合には、汚れを極力落とし、乾燥させた状態で、お買い上げになったお店に修理場所を明記の上、ご相談ください。なお、修理費用につきましては、商品価格の上、支出させていただきます。この修理の費用は、お客様のご負担とさせていただきます。



取扱説明書

保管用



7742

多目的ルーム



- ◆ご使用前に、「取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ◆本製品に付いているラベル等ははがさないでください。万が一とってしまった場合は、必ず同じ場所に付け直してください。

組立上のご注意

組み立ては平らな所で行ってください。

大人4人での設置が基本ですが、最低でも大人2人以上で行ってください。その際は特に設置の要領にご注意ください。

広げる際に「引っ掛かり」等がある場合、強引に広げないでください。フレーム、生地等が破損するおそれがあります。広げる作業は必ずゆっくりと行ってください。無理な力をかけるとケガや破損の原因となります。

ペグは設置場所の状況に応じた市販の物を購入して使ってください。必ずお読みください。

ガイドロープはしっかりと張る様に取り付ける事で、テントへの風の抵抗を軽減してくれます。

安全上のご注意

キャンプにでかける前によく読み、必ず一度建ててみてください。

▲記号は警告・注意の内容であることを示します。

▲ 注意

この警告を無視して誤った使い方をすると、人が傷害を負う事故、及び物的損害の発生が想定される内容を表示しています。

ご使用前に必ず一度、試し張りをして付属品の不足、縫製不良がないかチェックしてください。

キャンプサイトは平地、乾いた地面、水はけの良い場所、日当たりの良い場所、風の影響の少ない場所を選んでください。

設置前に地面を整理し、小石等の凹凸を無くしてください。

テントの生地は簡易防水加工を施していますが、基本的には日よけ用としてお使いください。

このテントは一般キャンプ用に規格されています。山岳用、または軍用としてのご使用は避けください。また、台風・集中豪雨・暴風時にはご使用を中止し安全な場所へ避難してください。

テントの近くでの焚き火などの火を扱う場合には、テントに燃え移らないよう十分注意した位置でお願いいたします。

天候時の不可抗力やお客様のお取扱い上の不注意、不当な修理・改造による故障、破損等は保証いたしかねます。

フレームを折りたたんだり、ふついたりして傷つけないでください。フレームの破損の原因となります。また、強風時にテントが変形して一定箇所が負荷がかかりすぎた場合は、フレームに傷が付きたり、破損することがあります。

テントの防水性は徐々に低下します。また、市販の防水スプレー等で防水加工を施してください。縫製部分から水が浸入する場合がありますが、市販のナイロン生地の防水剤の目止め剤を使用してください。

テントの破損を発見したらすぐに補修してください。その際は市販のテント(タープ)用リペアキットを代用して補修してください。

ご使用後のテントは日陰干しでよく乾かしてください。完全に乾いてから各部品の数を数えて収納し、保管してください。濡れた状態で保管されると、生地の色や部分へ色移りする場合がありますのでご注意ください。

▲ 警告

この警告を無視して誤った使い方をすると、人が死亡、または、重傷を負う事故が想定される内容を表示しています。

風が強い日の使用は危険ですので、絶対にしないでください。本製品は日よけ等を目的とした商品であり、雨よけではありません。雨や雪が降った場合のご使用も絶対にしないでください。

使用時は組み立て完了後、安全を確認してからご使用ください。

テントの上に乗りたり、おろ下がりたりしないでください。落ちると危険です。

テント内の換気はこまめに行ってください

テント内での火器の使用は危険ですので絶対に使用しないでください。



火気厳禁

緊急時のために

- 設置場所の消火設備を確認しておきましょう。
- 出入口に物を置かないようにしましょう。
- 夜間は枕元に懐中電灯を備えておきましょう。

多目的ルーム/組み立て方法

部品明細

本体フレーム



1

幕体



1

出入口カーテン



1

ベグ



12

ガイドロープ



4

キャリーバック



1

■まず、幕体等すべての部品を取り出し部品がすべて揃っていることを確認してください。

設置時のご注意

テントの破損は設置時と撤収時に多く発生します。完全に設置が完了した状態で強度設計されています。風が吹いているときは作業を見合わせ、風が収まってから設置・撤収をするようにしてください。

1 本体フレームを広げます

図の様に本体フレームの上下2箇所をもって完全に広げます。
この時、必ず大人2人以上で設置してください。
広げる方向は対角方向にゆっくりと広げてください。



POINT!!

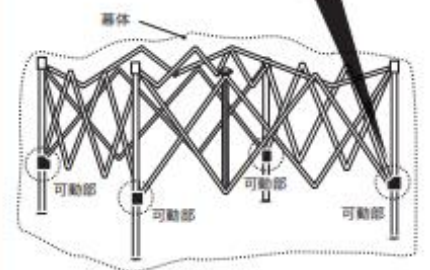
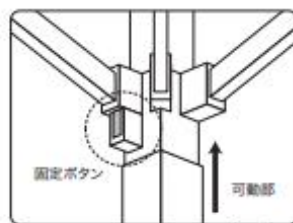


■最初にフレームがゆがんでいると開きにくくなっています。フレームがまっすぐになるように形を整えてから、均等な力でゆっくりと対角方向に広げてください。

□同時に可動部を上へスライドさせると、より広げやすくなります。

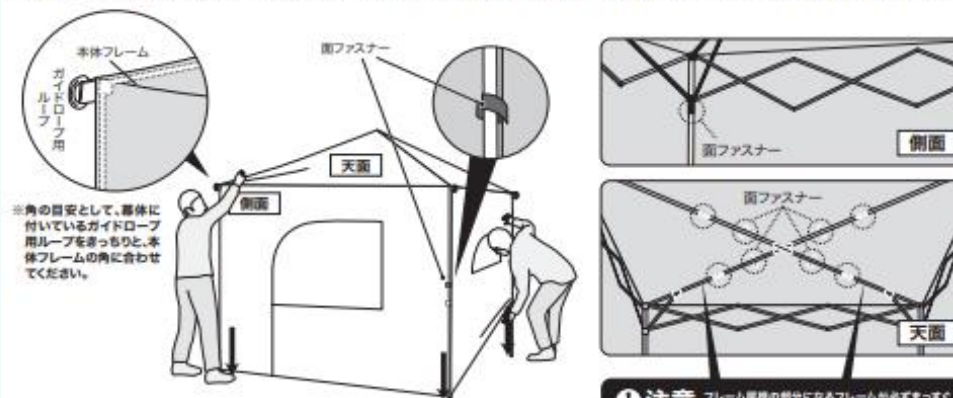
3 上部の固定

可動部を「カチッ」と音がするまで上げ、確実に固定してください。
収納する際は、可動部の固定ボタンを押しながら可動部を下げてください。



4 幕体を固定します

上部の固定ができた後、幕体と本体フレームの四隅がしっかりと合うようにして幕体をかぶせてください。
※この時安全のため、四隅を固定ファスナーでとめてください。次に下図の様に、幕体の指定の箇所を止め、本体フレームと固定した後、脚部を伸ばしてください。



①注意 フレーム屋根の部分になるフレームが必ずまっすぐになっている事を確認してください。

5 本体高さの調節・固定

脚部をお好みの高さに伸ばして高さを決めてください。固定箇所は3段階に高さ調節できますが、1番低い状態は収納時に使用してください。

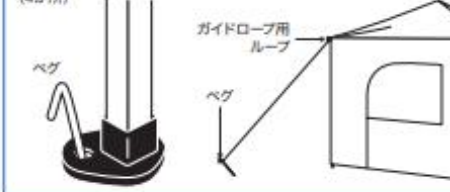


①注意

脚部の伸縮部には、アルミのこすれ防止のためにプラスチックガードが付いています。そのため、伸縮調整の際、固くて動かすに難しい場合がありますのでご注意ください。

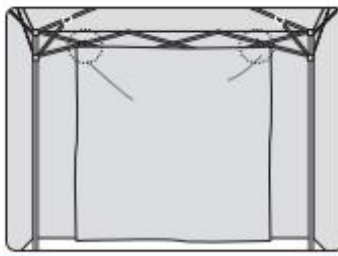
6 ベグ・ガイドロープの固定

設置場所が決まったら、フレームにベグを打ち込み固定します。(4か所)
次に、ガイドロープ用ループにガイドロープを通し、ベグで固定します。(4か所)



7 出入口カーテンの設置

出入口カーテンを使用する場合は、お好みの位置のフレームに固定してご使用ください。



防災用マルチルーム・多目的ルーム 共通使用例

更衣室として



トイレスペースとして



授乳施設や子供部屋に



診察室や相談室として

